



圧縮木材で試作したスピーカーを手にする丹羽社長

圧縮木材の商品開発加速

今年に駆ける

名古屋木材

木材や合板など建築資材の加工、販売を手掛ける名古屋木材。国産材ヒノキなどの活用を狙いに十年来、取り組んではいるが、自社の木材圧縮技術による新たな商品の開発だ。同技術は木材に圧力を加えて加熱することで、堅さやしなやかさといった付加価値を生む。これまで手帳カバーなどを開発し、2016年はスピーカーボックスを試作した。今年はスピーカーボックスの商品化と、圧縮木材の素材供給拡大を目指す。

(松田理恵子)

木材は中空構造のため、プレスで構造がつぶれる。つぶれた状態で加熱すると、堅い圧縮木材ができる。ことから、薬品を使用せずに国産材を堅くできる。自然の風合いが楽しめ、ぬくもりのある商品が生まれる。

11年にNTTドコモの携帯電話ボディーに初採用された。木目や色合いが受けた方5千台を売却。どこ

スピーカーボックス商品化へ

丹羽耕太郎社長は「圧縮木材は売上高構成比の数%だが、大きな収益になるよう育成したい」と期待している。

その後、圧縮木材を何層も重ねて正五角形に加工したゴルフのパターヘッドの商品化を経て16年に試作したのが、スピーカーボックス。五角形に加工した圧縮木材にスピーカーを内蔵。スピーカー上部に逆凹(さかこ)い形の圧縮木材を設置し、きれいな音が360度響くスピーカーを実現した。

16年10月に名古屋市内で開かれた展示会「メッセナゴヤ2016」でスピーカーを披露したところ、想定以上の反響を得たことから商品化を検討する。2月には東京ビッグサイトで開かれる雑貨の展示会「ギフト・ショール」に初出展し、圧縮木材のニーズを探る。

川裕司取締役執行役員は「ギフト・ショールを機に、圧縮木材の素材供給にも力を入れたい」と話す。圧縮木材の素材は、スマートフォンケースなどを製造するパワーサポート(本社東京)に16年から供給を始めたばかり。スマホケース向け圧縮木材は、木材をプレスした後、緩めることで木材が元に戻るうとする特性に着目し、柔らかい状態で再加熱して形状を固定する。しなやかに曲がる圧縮木材はこれまで、靴べらや手帳カバーなどを自社で商品化した。



2017年(平成29年)

1月21日
土曜日